

第 6 章 維 持 管 理



6.1 維持管理の取り組み

アザメの瀬では自然再生事業の長期的な事業特性から維持管理計画は必要不可欠であり、事業主体と地域の役割分担などを考慮し、持続可能な維持管理システムを地域との協議の中で構築することが重要である。

アザメの瀬の維持管理は、地域主体の取り組みが推進されており、その現状を紹介する。

(1) 武雄河川事務所と唐津市の協定書

アザメの瀬における維持管理については、「アザメの瀬自然環境学習センター」と「河川敷（棚田の部分）」において、武雄河川事務所と唐津市の間で、協定書が交わされている。

「アザメの瀬自然環境学習センター」管理及び運営に関する協定書は平成 18 年 2 月 1 日に交わされた。協定書の主な内容として、協定書の対象範囲、運営や維持管理に関する費用負担、運営要領を定めている。また、協定書にあわせて、「アザメの瀬自然環境学習センター」管理運営要領が作成されており、管理体制、不慮の事故・災害時の連絡体制、利用の原則について記載されている。

「アザメの瀬河川敷」管理及び運営に関する協定書は平成 18 年 9 月 13 日に交わされた。協定書の主な内容は、協定書の対象範囲（棚田の部分）、事業や維持・修繕にかかる費用負担について定められている。

これらの協定書によって、武雄河川事務所はアザメの瀬における管理及び運営の一部を唐津市に委ねているが、唐津市は維持管理を NPO 法人アザメの会に委託しており、実質的な維持管理は NPO 法人アザメの会が行っている。

(2) 地元主体の維持管理の現状

NPO 法人アザメの会が実施している維持管理の現状（実績写真）と問題点を紹介する。

地域住民が取り組む維持管理

前述したとおり、アザメの瀬の維持管理の一部は唐津市が担っているが、清掃や除草については唐津市から NPO 法人アザメの会に委託を行っている。委託内容は年 2 回の維持管理活動が基本となっているが、年 2 回の除草作業では、利活用に支障をきたすため、年 5 回程度の除草を実施している。このように、維持管理活動は、唐津市からの委託及びボランティアによって行われている。さらに、実際に利活用に使われる棚田の管理もアザメの会が中心となって行っている。



清掃活動や除草作業の様子

維持管理活動の実態

アザメの瀬で日常的な利用者が多い場所は、散策に利用されるモニタリング道路、展望広場、トンボ池周辺であるが、舗装箇所以外は草地となっているため、定期的な除草作業はモニタリング道路周辺、展望広場周辺、トンボ池周辺を対象として行っている。

また、環境学習や自然環境教室の開催時には、子供たちが気軽に湿地内へアクセスすることが出来るようになっているが、これは、アザメの会においてイベント前に草刈や清掃などを行い、子供たちへの安全面に配慮しているためである。

このように維持管理活動の中心はNPO 法人アザメの会であるといえる。

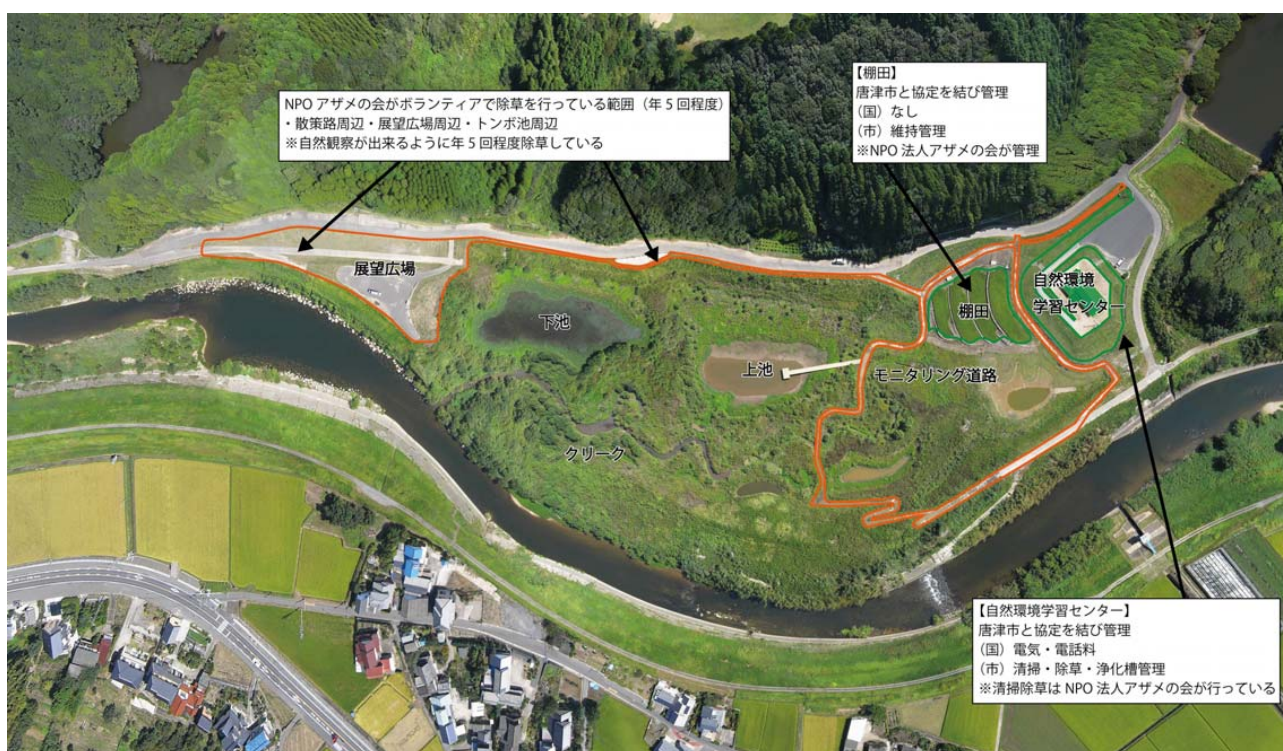


図 6-1 アザメにおける維持管理の実態

6.2 今後の維持管理のあり方

維持管理における課題

アザメの瀬の維持管理は、唐津市から NPO 法人アザメの会への委託により実施されているが、NPO 法人アザメの会ではボランティアとしての草刈りなども実施している。また、子供たちが参加する環境学習などの利活用時にも事前にボランティアとして草刈りなどを実施している。

ただし、NPO 法人アザメの会においても活動の中心となっているメンバーは固定化されており、トラクターなどの機器を使う作業やため池の管理等は特定の人間に偏っていることから、後継者の育成が急務である。維持管理に関する現状での課題は以下に示すとおりである。

課題 : NPO 法人アザメの会の会員の高齢化・参加者の減少

課題 : 維持管理に必要な予算の確保（現状では補助金が主となっている）

自然の変遷と関わっている人との関係で難しいことは、時間のスケールである。自然の変遷は、時間のスケールが長く、地域の方々はこれに対し、世代交代を繰り返しながら、順応的に付き合っていくことが必要となってくる。シニアパワーの伝承という、核となる人の育成が重要であり、この体制作りをしっかりと行っておかないと継続性が危ぶまれることになる。NPO 法人アザメの会が中心になって維持管理活動に携わっているが、柵田やため池の管理には専門的な機器や知識が必要であり、特定の人間に偏ってしまうことが問題点であるといえる。

また、検討会を経て、順応的管理による維持管理が出来るアザメの瀬ではあるが、ごみ処理の費用や機械を動かすための費用など多少の資金が必要である。だが、資金は地元住民だけで準備するのは難しく、資金確保の仕組みづくりも課題であるといえる。さらに、土工作业等の規模の大きな補修作業については、地元住民だけではどうすることも出来ず、行政と一緒に取り組む必要がある。

今後の方向性

上記の課題に対して、アザメの会では今後の方向性を以下のように考えている。

表 6-3 維持管理における課題と今後の方向性

課題	今後の方向性
課題 : NPO 法人アザメの会の会員の高齢化・参加者の減少	・後継者を育成し、バトンタッチを図っていく必要がある。
課題 : 維持管理に必要な予算の確保（現状では補助金が主となっている）	・各方面への PR を行い、予算を確保する。

実際に維持管理に携わっている地元住民にとっては、維持管理の簡単な場所や難しい場所も簡単に区別がつき、より良い維持管理方策を考えている。「ここは良いが、あそこは悪い」といった議論は、何事も検討会で議論していく価値のあることである。

例えば、上記の課題が得られた検討会では、「魚道は石積みに補修するのはどうか。また、環境学習時に子供たちに石積みに補修してもらうような企画を考えれば、子供たちにとっても良い経験となるのではないか。」や「維持管理の一環として、ヤナギを伐採するだけではなく、伐採木を使った利活用を考えよう。」といった意見が得られた。

上記に挙げたように、維持管理の中心である NPO 法人アザメの会では様々な課題を抱えており、今後も新たな課題が出てくる可能性もある。これまでも地域住民の協力で、アザメの瀬の維持管理は成り立っており、今後も地元住民による活動は必要である。利活用同様に順応的管理のもと、話を続けて問題解決していくことを基本とする。

